

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291100069		
法人名	ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター香貫山		
所在地	静岡県沼津市下香貫塩満 1830-2		
自己評価作成日	令和2年 12月 1日	評価結果市町村受理日	令和3年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和3年 2月 2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【誠意・誇り・情熱】の社是の下、『見守り・気配り・思いやり』をスローガンに掲げ、利用者様に寄り添いながら笑顔で過ごせるホームを目指しています。日々、明るく楽しく家庭的にお過ごしいただけるよう利用者様お一人お一人の気持ちを理解することを意識し支援しています。
また、地域資源を活用するとともに地域の一員として、例年はお祭りや防災訓練、子供のイベント・古紙回収、地域の清掃等に参加し、ホームで認知症カフェを定期的に開催するなど、地域の方と顔見知りの関係を築き、住み慣れた地域で安心して過ごして頂けるように努めています。
今年度は、ホームで感染対策を徹底して行いながら、利用者様・ご家族様が不安にならない対応を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周辺には、沼津御用邸記念公園があり、利用者との散歩コースとしても利用されている。スーパーなども徒歩圏内にあり、地元の食材を取り入れた食事が提供されている。管理者は、地域を活性化させたいと考えており、積極的に地域への情報発信を行っている。運営推進会議には、歯科医師、薬剤師等、多数の専門職が参加している。リスク対策でも改善に繋がった事例があった。また、認知症に対する理解や事業所の取り組みを伝える場として、認知症カフェを開催した。現在は、コロナ渦で中止となっているが、再開を目指して行きたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼の申し送り時に、社是・経営理念・コンプライアンススローガンを唱和し、また、拠点スローガンを「見守り・気配り・思いやり」に継続し、職員一同で意識を高め実践している。	理念に基づくスローガンは、年度毎職員が意見を出し合い作成している。今年度は「見守り・気配り・思いやり」である。朝礼や会議で唱和する事は、日々忘れがちになる目標を共有する為にやっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年、自治会に参加し、地域活動・子供会のイベントや古紙回収に積極的に参加していたが、今年のコロナ対策等により、活動やイベントが中止となり、交流が困難な状況である。	例年であれば、地域の行事や活動に参加し交流が図れているが、今年度はすべて中止となっている。管理者は、地域に開かれた関係づくりを目指しており、認知症カフェを再開したいと考えている。	地域貢献の一つとして、取り組み始めた認知症カフェの再開を一つの目標としている。今後も、事業所の強みを活かした活動を期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年も事業所のイベント・見学会の開催、認知症カフェの開催を企画していたが、今期は全て中止となっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第三火曜日に開催し、事業所の報告のほか、地域関係者や事業所関係各位からの意見を伺い、サービス向上に活かしている。今年度のホームでの開催はなく、書面配布や電話等により意見を伺い、事業に活かしている。	管理者は、地域を活性化させたいと考えており、会議の場を通じて、地域への情報発信を行っている。医師、薬剤師等、多数の専門職が参加している特徴があり、リスク対策でも改善に繋がれた事例がある。また、交番等にも働きかけ、事業所に関心を持ってもらえるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所に運営推進会議の議事録や、GH連絡協議会へ情報提供票を提出し、報告や相談を行っている。また、毎月、市の介護相談員が来訪され、直接入居者様の様子や相談に対応している。	市担当者とは、グループホーム連絡協議会で直接相談する機会があり、顔の見える関係が出来ている。日頃から制度に関する質問や相談を適宜行っている。また、介護相談員が毎月訪問しており、第三者の視点を取り入れながら運営している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施設は、夜間時間帯以外は開場している。毎月、身体拘束廃止委員会を開催し、会議内容は、全職員が周知している。「身体拘束0宣言」を掲げ、身体拘束をしないケアを実践している。	身体拘束廃止委員会を2年程前に発足した。委員会を活用する事で、全体の課題として取り組む事ができるようになった。また、配信動画を利用し、内部研修を継続する等、現状に合わせた取り組みを行っている。知識の理解度を確認する為、年2回テストを実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、「身体拘束廃止ファーム」に出席し、その職員による研修を行い、全員が周知している。繰り返し行う事で、職員間の意識を高め虐待防止に努めている。また、身体拘束廃止委員会での研修も行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の中で、実際に成年後見人制度を利用されている方もいらっしゃるの、ご意見を伺ったり、研修等に組み入れ、より理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご利用者様ご家族に疑問点や不明点がないか、必ず確認しています。疑問点がある場合は、その都度説明をし、納得していただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議等で、気軽に意見等伺いながら、施設の運営に反映しています。また、年に一度「満足度調査」を行い、問題をクリアできるよう努めている。	面会時での意見交換の他、年1回の満足度調査を実施している。調査の集計は、本社で直接行われる為、回答者が意見を述べやすい仕組みとなっている。率直な意見が出る事で、具体的な改善に繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の業務ミーティングには、なるべく全員出席できるよう努め、全員の意見を反映できる機会を設けている。また、ユニットごとカンファを毎月行い、細かい意見にも耳を傾けている。	毎月の全体会議は、2ユニット合同で開催されている。ユニットで発生した課題も、事業所全体の課題として捉える事を基本としている。職員からは、ケアに関する意見が多く挙がっている。個別の相談は、面談の機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度を積極的に推進し、対象の職員にはテストを実施し、給与面でのサポートを実践している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修だけでなく、県や市・外部主催の研修や講習を職員が受講できるよう、案内の周知を徹底し、積極的に参加できる機会を増やし、スキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沼津市南部のGH連絡協議会に出席し、他施設の方との交流や意見の交換をし、サービスの質の向上に努めている。また、会での意見を職員にも報告し、状況を把握するようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご自宅等を訪問し、面談や契約を行いながらご本人のご要望やご意見を傾聴し、ご自宅の環境を知ること、入居後も安心して任せられるという信頼関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご自宅等を訪問し、面談や契約を行いながらご家族様のお気持ちや、ご要望やご意見を傾聴し、入居後も安心して任せられるという信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・ご家族様と面談し、アセスメントを行い、必要としている支援を見極め、可能な限りできる支援を詳しく説明し、同意頂き対応させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と共に過ごす時間を大切にして、家庭的な雰囲気の中で随時コミュニケーションをとりながら、一人一人のペースに合せ信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の来訪時や電話で、随時利用者様の様子を伝え、情報共有を行っている。また、全てのご家族様宛てにホームからの月々のお便りを送り、様子をお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は、入居者様の知り合いや馴染みの方と、窓越しやタブレットでの面会、電話連絡といった方法を使い、関係が途切れない様に努めている。また、お手紙のやり取りなども行っている。	コロナ渦であっても、家族との関係性が継続されるよう、面会方法を工夫している。また、年賀状を利用者と作成したり、写真付きの手紙で、日頃の様子を報告している。家族からも、喜びの声が届いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が一緒に楽しめるレクリエーションを日常的に取り入れ、季節によりイベントを企画し、例年よりは小規模だが定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、ご本人・ご家族様の要望に合せ関係を継続している。ご本人の転居先にご挨拶に伺ったり、ご家族様が顔を見せ、近況などをお知らせくださる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、個別に寄り添い、向き合いながら、ご本人の願いや思いを傾聴しています。また、ご家族様から担当者会議等で、ご意見・ご希望を伺いながら意向にそえる様に努めている。	センター方式を活用し、日常の観察で得られた情報や、職員からのヒヤリングを取りまとめ、半年に1回アセスメントを行っている。入所時に家族からも情報を得る事で、利用者理解を深めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からの聞き取りだけでなく、ご家族にご協力いただき、センター方式B領域にこれまでの利用者様の生活歴や生活環境等を出来る限り詳しく記入頂き、ケアに反映させている。また、入居前にご自宅を訪問し、日頃の生活を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録や日常生活支援シートをもとに、カンファレンス等で、入居者様の暮らしの現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやモニタリングを随時行っている。内容によっては提携医の主治医に意見を伺ったりして現状に即した介護計画を作成している。	全体会議の中で、ケースカンファレンスを実施している。ケアの実施状況や目標達成度を踏まえて、計画書が作成されている。また、計画書の内容を「日常生活支援シート」にまとめ、閲覧できるように工夫されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録に詳しく記録して、特記事項は管理日誌にも記入している。また、職員間でノートを記録し、気づきやささいな発見などを記入し、申し送りを大事にしている。毎月、フロア毎にカンファレンスを行い、情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様・ご家族様の希望を取り入れながら、要望にそった支援を心がけている。必要に応じて訪問看護や訪問マッサージとの契約、利用者様ご家族様のニーズに対応した家事代行業務の案内などで対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は、コロナ禍による地域自治会等の行事や市の敬老会等も中止となりましたが、例年、地域行事の参加をしながら交流を図っています。また、運営推進会議で各関係機関・地域の方へのホームの状況資料を送付し、ご意見を頂くという繋がりをもっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に、ご家族様に提携意の説明を行い、ご納得頂けた場合に提携して頂く。提携医の受診は職員が行い、他病院の受診はご家族様対応になっている。月に二度、個人往診と全体往診がある。	入居時に協力医療機関について説明を行い、主治医を変更するか選択できる。他の医療機関への受診は、家族対応が基本となる。協力医は、訪問診療のほか、往診も可能であり、ほぼ毎日事業所に訪問している。また、訪問看護ステーションと24時間オンコール体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医の往診が月二度あるのと、提携訪問看護師も月二度の定期訪問があり、24時間対応で緊急時や相談等に随時連絡できる状況であるので、その都度状況を伝え指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様の入院時は、ご家族様・医療機関・職員の情報を共有し、早期退院にむけて病院の地域連携室の医療ソーシャルワーカーとの協力体制を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者様・ご家族様との契約時で重度化や終末期に向けての話し合いを行い、事業所の方針を十分に説明し、ご利用者様・ご家族様の意向に沿ったケアが出来るように取り組んでいる。また、主治医を交えた状況説明を行っている。	事業所は、基本的に看取りケアを実施しない考えであり、入居時にも説明を行っている。利用者の状態変化に応じて、適宜家族と話し合いながら進めている。事前に方針が提示されている為、家族も段階的に意思決定が出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急時対応マニュアル」等を活用し、急変や事故発生時に対応できるようにしている。業務ミーティングの際も緊急時の対応の研修を行い実践力を養っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施し、年に2度消防署の指導も受けている。地域防災訓練や津波避難訓練にも参加し地域の協力体制を築いている。	年2回の防災訓練では、消防署の立ち合いで消火・通報訓練を実施している。事業所の特性を踏まえたマニュアルが整備されており、訓練にも活用している。備蓄は、水7日・食品3日分ほど用意されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護トレーニングを全職員が実施し、理解を深めている。ご利用者様一人一人の状態に合った言葉かけを意識し、尊厳維持に努めている。	入職時には、基本研修として、個人情報保護についてトレーニングを実施している。また、全体会議でも研修を継続的に実施している。不適切な場面が発生した場合は、個別面談を中心とした指導が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎朝の朝礼時に「お客様の言葉・意志を大切に」のスローガンを唱和し人格尊厳と尊厳維持に努めている。また、テラスでお茶を飲みながら、利用者様の話易い環境の中で、思いや希望を聞く機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活において、ご利用者様に寄り添い、そして傾聴し一人一人の意向に沿うよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の個性を尊重し、季節に合わせた洋服や色を提案して、楽しく過ごせる様支援している。また、2ヶ月に一度、訪問理美容を利用して、個人の要望を取り入れたヘアカットをして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の出来る範囲で、職員と一緒に食事の準備や片付けを行っている。ご利用者様の好みや季節の食材を取り入れ、なるべく意見を尊重した献立にアレンジしている。	献立は、本社の栄養士が作成しているが、事業所でアレンジして提供している。食材は、地元の八百屋やスーパーで購入している。時には、パン屋で購入したサンドイッチが、食卓に並ぶこともある。利用者也参加しながら食事の準備を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の立てた献立表に基づき、栄養バランスの取れた食事を提供している。特に水分摂取量に気をつけ、記録として残し、個人の状態や主治医の指導に応じて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に必ず口腔ケアを行い、一人一人の口腔状態に沿ったケアを支援している。また、提携歯科医や衛生士に相談や口腔内の状態確認をして頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様によって排泄パターンが違うので、個別に管理・記録を行い、職員が情報を共有出来るようにしている。また、声かけ・誘導・介助を定期的に行い、失敗しても大丈夫であることを伝え、次につながる介助を心がけている。	トイレに座って排泄する事を、基本と考えている。重度化した場合も二人介助する等、個別に合わせた対応を行っている。また、食事や水分量にも配慮し、安易に薬に頼らないケアを実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事にヨーグルトや牛乳などの乳製品を積極的に取り入れ、また水分摂取量に注意しながら慢性的便秘とならないよう努めています。日頃からラジオ体操・廊下歩行・散歩・ストレッチ体操を行い腸が活発に動くよう心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日を設定しているが、ご利用者様の体調や気分等を優先に対応している。ゆずやラベンダーなど、ご利用者様の好きな入浴剤を使用して気分転換が図れるように工夫をしている。	午前中に入浴時間を設け、利用者の体調や気分を踏まえて、調整を行っている。利用者の特性に合わせた、手順や声掛けを工夫し、週2回は入浴出来るように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は、昼寝をされる方、居室でテレビを見る方、ホールで談笑される方、本を読む方等、自由な時間を過ごしていただいている。また、常にベッドメイキングを行い、気持ちよく快眠して頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全体往診時には提携薬局が同席して、一人一人の服薬状況を把握しているので、服薬方法や副作用などの相談ができる。納薬された薬のダブルチェックをし、翌日分の服薬セットや当日の服薬時にも必ず唱和してダブルチェックを行い服薬していただく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に一度は季節の行事レクを行い楽しんでいる。例年は1F2F合同レクを行っていたが、今年度は各フロアごと開催している。また、テラスに出てお茶を飲んだり、気分転換や楽しみを持って過ごしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	例年は、散歩や自治会管理の花壇の見学や、近くの御用邸の季節行事に合わせた外出支援をご家族参加で行っている。今年度は、庭のガーデニングを中心に外気浴や、距離を保っての花壇見学を行った。	現在は、感染対策を取りながら、出来る範囲で外気浴等を実施している。これまでは、近隣への散歩も行っていたが、困難な状態にある。状況を踏まえながら、判断していきたいと考えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の希望の買い物が出来るよう、欲しい物を伺ったり、外出時に希望があればご自身でお小遣いを所持し、購入できるように事前にご家族様にお伝えしながら行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様が自ら電話されたり、職員が取り次いだりしながら、希望に応じて電話ができるように支援している。手紙や年賀状・暑中見舞いのやり取りも自由に行える様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部は毎日清掃し、ご利用者様の体調に合わせて空調調節を行って、感染症予防の消毒も毎日行っている。玄関やホールには季節の花や飾り付けをして心地よい空間作りに努めています。	共有フロアは、暖色系の家具や日差しが入り、温かみを感じられる。季節ごとの装飾がされており、通路などには利用者の作品が掲示されている。各階にバルコニーやテラスがあり、外気浴を行う事が出来る。毎日清掃を行い、感染対策に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のホールで自由にくつろげ、ご利用者同士がコミュニケーションをとりやすい環境を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、居室に馴染みの家具や思い入れのある物品をお持ちいただき、自宅と同じように過ごしていただけるようにしている。また、状態に合わせてレイアウトを変えたりご家族様と相談して快適に過ごせる様工夫している。	居室は、馴染みの家具を持ち込むことが出来る。寝具や家具は、個人で用意してもらっている。装飾品は、本人の目線を考えてレイアウトしている。誕生日のメッセージカード等が掲示されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっていて、道路や階段・トイレに浴室まで全てに手すりが付いていて安全が確保されている。また、歩行練習として廊下歩行や階段の上り下りなど無理の無い程度に行い、自立を促している。		